



愛知県立旭丘高等学校漕友会会報

第 2 号 平成 10 年 12 月 25 日 発行

発行者：〒461-0032 名古屋市東区出来町 3 丁目 6 の 1 5

愛知県立旭丘高校内 愛知県立旭丘高等学校漕友会

TEL:052-721-5351 FAX:052-723-6825

事務局 e-mail: yyyama@z2.zzz.or.jp 山本芳敬（旭丘 27 回）

eiichi@japan.email.ne.jp 桑山栄一（旭丘 19 回）



漕友の発刊にあたって

長谷川 誠（旭丘 7 回）

大変に厳しい世情の中で、みなさまが夫々のお立場でご活躍、ご奮闘なさっていらっしゃることに拝察申し上げます。

昨 9 年 3 月 20 日漕友会改組再発足致しましてより、早や 1 年 8 ヶ月、新「漕友」1 号発刊から 1 年が経過致しました。最低でも年 1 回は、漕友を発刊しようという申し合わせの初めての約束が果たせることを嬉しく存じます。

お蔭さまで、漕友会休眠中は低調であった現役諸君の活動も、後の頁で顧問からの報告があると思いますが、勢いを得て参り、相当に期待できる経過を辿っております。

又、復活した津校艇友会との定期戦も、旭丘漕友会の状況が津高艇友会を刺激するかたちになって、艇友会も組織の再編を経て、来年には岩田川でレースが展開できると思います。

今年に入ってから、4 月 26 日のマスターズレガッタ（愛知池）、10 月 4 日の名古屋市民レガッタ 中川運河、11 月 1 日のねんりんピック 愛知池の各大会に、漕友会会員の出漕参加を得ました。

賑々しく開催される大会と嬉々として参加されている昔の選手達の皆さんと接するとき、又、市民レガッタで、家族ぐるみ参加して親子兄弟姉妹共々にオールを握っておられる様子を眺めるとき、ボート競技が除々にではあるが開かれたスポーツになってきていることと、終生スポーツとしての位置を固めつつあることを強く感じます。

その時々々の持てる体力に合わせて、漕ぐことを楽しめるという点で、今後は、これまで足の向かなかった会員の皆さんが、遠慮気兼ねなく集い、楽しんでいただける機会を多く提供できるよう計らっていきたいと思います。

現役選手諸君の一層の活躍を願っての支援と、自らの体力に合わせて往年を偲ぶことが出来る明るい漕友会で在り続けられますよう、今後もよろしくご支援、ご指導をお願い申し上げます。



98 年名古屋レガッタ準優勝の漕友会クルー

交流の歩み

津高艇友会会長
吉川昭一

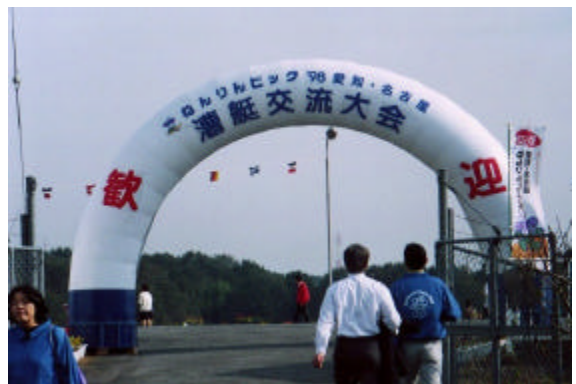
貴会（校）との定期戦を考えると、歴史の重みを感じます。その嚆矢は遠く明治 38 年まで遡ります。この年、岩田川で行われた第 7 回三重一中端艇競漕会は、初めて愛知一中を迎えて開かれ貴校が勝利しております。その後幾度かの対戦を経て、時代は昭和へと移ります。昭和 10 年秋の中川運河での対戦でも、一尺（約 30 センチ）の小差を持ってわが校が惜敗しています。そして昭和 12 年 8 月 1 日琵琶湖大津柳ヶ崎で開催された第 5 回全国中学校優勝競漕大会 2 回戦での対決となるわけです。事実上の優勝戦と目されたこのレース様子は、今でも語り草となっている程で、抜きつ抜かれつの大接戦のすえ僅差を持ってわが校が勝利を手にしたのです。この大会、結果的には津中学が優勝して初の全国制覇を成し遂げたわけです。

戦後それぞれ旭丘高、津高と名前が変わってからは、昭和 23 年東海選手権の決勝戦で両校あいまみえ、このときは当方が制しております。昭和 57 年 8 月 15 日の第 5 回岩田川レガッタへ貴会（校）をお招きして、実に 34 年ぶりに両会（校）の対戦が復活したわけです。その後会場を持ち回りにしてすでに 12 回を数えていることは、すでにご承知のところであります。こうして振り返ってみると、両校（会）の間には 100 年にもなんんとする永い交流の歴史があるわけです。

私ども津高艇友会は、昭和 47 年 8 月結成されて以来「現役の強化」「OB の親睦」を主な目的として会の運営をして参りました。しかし、前者については未だ十分な成果を上げるまでにはいたっておりません。だが昨今の半ばセミプロ化した高校スポーツ界の現状を目の当たりにするとき、学業と部活動の両立という高い目標を掲げ、それに対して真剣に立ち向かうことも、また大切なことではないでしょうか。

この旭丘漕友会 VS 津高艇友会の定期対抗戦が、両校ボートの栄光ある歴史と伝統を次の世代へ引き継ぎ、更に発展させるのに少しでも寄与できれば、その意義は誠に大きいといわなければなりません。99 年秋には、岩田川河口へ皆様をお迎えして、今世紀最後の定期対抗戦を予定しております。多数の漕友の来津を心よりお待ちしております。

平成 10 年 12 月



唇に歌をもった

愛知県立旭丘高等学校長 松原真志夫

同窓会 100 周年を記念して刊行された『鯨光百年史』には、愛知一中・学友会活動の歴史が紹介されている。端艇部については、大正 10 年の条に、加藤将之選手（一中 44 回）のことばとして、次のような記述がある。

「一中端艇部の伝統は、練習鍛錬主義にあったように思う。一中漕法の科学性についても、寺沢仲之助氏の研究論文によりかなりの信仰性を抱くことができた。先輩はみなよい人ばかりで、後輩もまじめでよい人が多く、人間修業の場としてこの上もない道場であった。ポートマンはつねに唇に歌をもった。波にむかって一服せる時には歌は自然唇に出るのであった……」

琵琶湖をはじめ各大会で優勝し、「東海の常勝軍」とうたわれたころの、部と部員の婆がまぶたに浮かんでくる。伝統と光輝に満ちた我が旭丘高校漕艇部のいっそうの健闘を期待したい。

夢から現実へ

3 年生 佐藤康行

旭丘ボート部・・・各自が目標に向かって、自分たちで練習する自主的かつ創造的な場所。私は、せっかくの高校生活、何かを成し遂げ形に残すことで自分が単なる通過点ではなく、充実した時を送ったことを刻みつけたいという思いになり、インターハイ出場に向けた挑戦が始まった。

170 センチの小さな私が勝つには人一倍の練習が必要であった。特に 2 年生の冬の学校での陸上トレーニングは泣きたいほどつらいものであったが、春の選抜大会に出場できない悔しさとインターハイ入賞の目標が、6 限終了のチャイムに脅える私を練習へと向かわせた。また、雪が舞う夕暮れや、合宿の時は早朝 5 時から暗闇へ寒さで手の感覚がなくなるまで徹底的に漕ぎ込んだ。こういった地道なトレーニングは決して嘘をつかなかった。ウェイトトレーニングによる身体の変化だけでなく、インターハイ出場という結果を与えてくれた。

インターハイではベストの状態でも臨めず準決勝 3 位。あと一歩で順位決定戦進出だけに悔やんでも悔やみきれない。他校の選手と組んで愛知選抜として挑んだ国体では準決勝 4 位。決して自分の満足のいく結果は残せなかっただけに、大学でのボート生活に対する想いは強い。



私は部活動を通して、シングルスカルでの練習のつらさや孤独の奥にある喜びを見つけることや自分を高めることができた。そして、今まで私を支えて下さった方々に心から感謝しています。

マスターズレガッタ参戦

谷村 龍児（12回）

三日続きの雨がすっかり晴れ上がった4月26日、愛知県東郷町の愛知池漕艇場にて第9回マスターズレガッタが開催されました。

マスターズレガッタは40歳以上の選手たちで行われるボートレースです。今年も北は北海道から西は島根県まで、各地の高校、大学、実業団のOBなど、全74クルーが参加しました。

この日は1年ぶりのレガッタで、私も同級生の友松靖夫君と誘い会って会場に来ましたが、幼い頃の遠足の日のように一刻も早く会場に行きたくて、何と集合時間の2時間も前に到着してしまいました。

その頃には兵庫県淡路島の洲本高校、長野県の諏訪清陵高校、早稲田大学（稲門会）といったOBクルーがバスを仕立てて次々と到着しました。各クルー毎に揃いのユニフォームやウインドブレーカーの選手たちが集まり出すにつれて、広い会場も徐々に全国大会らしい雰囲気になっていきました。

レースは幼年（40歳代）、青年（50歳代）、実年（60歳代）の部門と着順を競わない70歳以上の礼漕の部とに分かれて行われました。

参加したいずれのクルーも往年の漕艇選手が中心となっており美しいフォームとピッタリ揃ったオール捌きで白熱したレースが次々と展開されました。旭丘高校のOBからは幼年組と青年組に各2クルーと実年組に1クルーが参加しました。



旭丘高校OBクルーはいずれもナックル艇のレースに参加しました。現役時代に使った艇はフィックス艇でであったため、漕ぎ方が全く異なります。

ナックル艇は4人漕ぎで、腰掛けの部分が4個の滑車でレールの上を前後50センチに亘ってスライドします。フィックス艇は6人漕ぎで腰掛けの部分は固定され、前後に動くことはありません。それにオールを支える部分もロウ・ロックとクラ

ッチと名称も構造も全く異なります。

慣れない艇のため、今年は12期の6人が中川運河に集まり、旭丘高校卒業後も中部電力ボート部で国体に何度も出場した経験のある伊神基博君の指導を受け練習をしました。付焼刃の練習では、本番で良い成績が出せるはずも無く、残念ながら惨敗しました。

それでも高校時代に全国大会で艇を並べたクルーと40年経った今、再び競漕出来た感動がありました。

さわやかな汗を流したお互いクルーの健闘をたたえ合い、当時とは違った友情を感じ合いました、

一方、7期の長谷川誠さん、8期の丹羽忠司さん、10期の尾関繁俊さんを中心とした実年クルーは予選6艇のうちトップで決勝に進んだものの残念ながら入賞を逸しました。

青年の部に出た旭丘漕友会Aクルーは伊藤寿洪、深山靖、千田勝二、友松靖夫、谷村龍児の12期で全員揃えました。

同じく青年の部のBクルーは16期の堀悟、大須賀登、それに18期の石沢嘉一、伊藤正志、水谷晃のメンバーでした。

幼年組では19期の青木崇佳、田淵哲雄、小川正宏に20期の名倉英一が加わったAクルーと23期の佐分敦郎、関口藤太、内堀典保我中心となったBクルーでした。

その他、今年の秋は60歳以上のスポーツの祭典「ねんりんピック」が愛知県で行われます。

ボートの部、愛知県の代表クルーに3期の新村雄康さん、7期の山元収さんが選ばれており、毎週愛知池で練習に励んでおられます。今回「愛知一漕会」クルーとして出艇、好タイムで決勝に進出しました。決勝では大接戦の末、優勝は逃しましたが、ねんりんピックでの活躍が期待されます。

レース終了後、12期のメンバーは長崎博三君も加え、6人が千田君のお宅を訪れました。さらに旭丘時代のボートのコーチを受けた8期の丹羽忠司さんと10期の尾関繁俊さんもお誘いし、庭でのバーベキューと冷たいビールにより奮戦の反省と昔話に花を咲かせました。



12期のボート部はまとまりが良く、1ヶ月前には伊藤寿洪君が御自分の経験された世界旅行を楽しい内容にまとめた「ぐるり地球」を毎日新聞社から上梓されたのを記念して、東京在住の加藤澄一君も交えて8人が集まったところでした。

来年は今年以上に練習し、再び出漕することを誓い合い解散しました。

速報：名古屋レガッタ、ミドルピッチで準優勝

10月4日に開催された第10回名古屋レガッタは、好天に恵まれ、中川運河で熱戦が繰り広げられました。長谷川会長ほか、諸先輩観戦の中、旭丘漕友会からはミドルピッチの部、ローピッチの部にそれぞれ出場。S田淵 3: 杉浦 2: 岡林 B高木、C青木で臨んだミドルピッチでは予選、準決勝と快調に勝ち進み、2分10秒台の好タイムで準優勝を果たしました。

【高木記】



田淵さん(19回)

高木さん(24回)

名古屋レガッタで堂々の銀メダル

田淵哲雄(19回)

中川運河も心地よい風が吹く運河に変身、はれた10月の空の下、名古屋レガッタが開催された。例によつてのんびりと会場に出かけたら、すでにレースは始まっていた。何と旭丘の若いクルーは欠場のこと。大丈夫かと会場を見渡しても、其れらしい人影はなく、今回は欠場かと、がっかりしていたら、高木浩氏が家族連れで登場。これでまずワンペア。あとは若いことを探して、岡林君！なんて言っていたら出艇時間。「ちょとまって」

大先輩の山元収さんに伊神基博さんの力を借りてやっどクルーを組んだ。整調田淵 3岡林 2番山元、バウ高木、コックス伊神、とにかくゆっくりやりましょう。ピッチは20ちょっと。合わせることに専念しウオーミングアップ。スタートダッシュ？なし！ちょっとだけイッシュケンマー！、なんてね。 2位ねらいで行きましょう。

各艇いかに、スタート！1本 2本 3本 ゆっくり行こう！あれ?!リードしているぞ。スタート10本くらいで水をあげてしまった。何だ、予定が違うぞ、と思ひながらも力が入る。どんどんリードする。こりやたまらん、気持ちがいい。ラスト100メートルで息切れ。あとひとふんばりぞ。船のペースががくっと落ちる。こりやあかん。と思ったらほかの艇もどんどん落ちる。なんと一着ゴールイン。やるもんだ。

予選が終わったところに青木君、登場。杉浦実さんに二番をお願いしクルー再編。つぎの準決勝は4ハイレースのイッパイ

あがり。これで解放される。とおもったらここも艇がくいくい進む。やっている本人が信じられない。なんと1着、決勝出場。これで本日3レース。さすが3レースはくたびれて、握力がなくなってオールの返しもできない。中学生相手に水をあげられさんざん。春日中学大健闘。（実力のCAは準決勝でこの春日中学に当たり決勝進出を阻止された。）それでも堂々2位の銀メダル。賞状は壁に飾っておいてます。



98年ねんりんピック観戦記

田淵哲雄（19回）

晴れ渡った秋空の下、98年ねんりんピック漕艇の部が愛知池でひらかれた。日本全国から多くのオアズマンが集い、昔年のライバルと熱戦を繰り広げた。ねんりんピックは、中高年の健康増進をめざして厚生省が主催する（今年は第9回、来年は福井で開かれる）スポーツ大会だ。地元愛知からは、八高・一中、一漕会、愛知漕艇協会選抜の3クルーが出場、いずれも決勝進出を果たした。決勝戦はそれに小樽選抜が加わり、いずれも予選、準決勝を勝ち抜いた強豪であった。（観戦子も1日で3つのレースのきついことは先日名古屋レガッタ出場した際に味わった）

小樽選抜はスタート多少遅れたが、予選、準決勝ともにペースの落ちることのない安定したレース展開から、ラスト100メートル付近で他の艇を抜き猿かとの観戦子の予想に反して、八高・一中クルーが、後半も変わらぬオールはこびで栄冠を勝ち取った。われらの先輩諸氏のワン・ツーフイニッシュ。小樽選抜は3位。愛知選抜は観戦子にとってなつかしい鎧塚氏が、舵をのり取ってのレースであった。

会場は、一家総出の応援でにぎわった。レースを終えて、オールアウトのオアズマンを暖かく迎える風景は、中日本レガッタとはひと味違うほほえましい光景だ。

会場では樋口親子に出会い、なつかしいひとときを過ごした。



樋口満さん（19回） ポート部現顧問山本芳敬さん（27回） 吉田邦夫漕友会顧問

厚かましくもお昼ご飯をごちそうになってしまった。樋口氏（19回生）は健康増進の研究をすすめており、次の週から学会で中国へ出張とのこと。ローイングマシンを取り入れた研究を進めているとのこと。ついでながら名古屋大学医学部脳神

経外科でもリハビリにローイングマシンを活用しようとの研究を始めているとのこと。

来年の福井大会には今回優勝の八高・一中クルーも有力候補となるのでみなさまの応援を期待いたします。

旭丘高校ボート部の現状

山本 芳敬（現部顧問）（27回）

平成 10 年度もシーズンオフに入りました。現役部員も陸上トレーニングに入って毎日汗を流しております。4 月には年度初めの人事異動で永年顧問をしていただいた加納先生が明和高校に転出され、旭丘高校ボート部にとって大きな痛手となりましたが、新しくみえた斎藤教頭先生（教頭先生も旭丘高校に長い間みえて私は体育を習いました。この数年は他校にみえました。）を顧問に迎えて、戸田先生と私の 3 人でこの 1 年動いてきました。4 月には 1 年生も多数入部し活気のある 1 年を送ってきました。現在活動している（来年も漕ごうと陸トレをしている）部員は、1 年生男子 9 人、女子 5 人、2 年生男子 3 人です。中でも 2 年生のシングルスカル中村健吾君は県新人戦 2 位、中部選抜大会で 4 位。また、ダブルスカル佐藤弘明君、近藤千真君は県新人戦 1 位、中部選抜大会 3 位の成績で平成 11 年 3 月 20、21 日に天竜市で行われる全国選抜競漕大会に出漕することとなりました。夏の全国高校総体にはシングルスカルで、9 月の国体には愛知選抜のダブルスカルの整調として、いずれも準決勝に進出した 3 年生、佐藤康行君、春の総体で 2 年生舵手付きフォアクルーを 2 位に導いた 3 年生コックスの板東信人君も、安心して後輩をみていることと思います。（今年の 3 年生は寂しいことに 2 人しかいなかったんです。）

さて、いよいよ、来年度の新入生よりシェルフォアが廃止され新種目のクオドルプル（舵手付き 4 人漕ぎスカルのことで、艇の大きさはシェルフォアと全く同じです。リガーが両舷に付きます。）に変更されます。試合は平成 12 年の秋の新人戦からです。先輩を始め、OB、OG のみなさんの益々のお力添えをお願いいたします。

各部 OB 会連絡会について

桑山 栄一（19回）

1998 年 11 月 14 日旭丘高校 OB 会連絡会が開かれましたが、小生所用のため出席できず、24 回高木浩司君に出席をお願いいたしました。連絡会の状況は次の通りです。各部 OB 会との横の連絡をもつことが、今後の漕友会運営にプラスになればと参加すること致しました。ご報告いたします。

旭丘高校同窓会 50 周年と鯨光会顕彰会が開催された 11 月 14 日、同行事に先立って国際ホテルで久しぶりに「各部 OB 会連絡会」が開催されました。柔道部顧問で 18 期理事の杉山正明先生（旭丘高校教諭）が連絡の労をとられたもので、弓道部、剣道部、硬式テニス部、硬式野球部、サッカー部、柔道部、相撲部、電気部、バスケット部、バレーボール部、ラグビー部、陸上部、水泳部、そしてボート部（高木が代理出席）の各 OB 代表が集いました。各部 OB 会の実態がアンケートによって報告され、同窓会活動全体の活性化のためにも、OB 会の横の連絡を密にすべきとの結論を得、相撲部 OB の桜井治幸氏（15 期、鯨光会理事）を代表幹事として今後運営することになりました。【高木記】

近況報告

高木浩司（24回）

24期卒業の高木浩司と申します。卒業後25年、「漕友」にもはじめて書かせていただくので、お詫びを含め、私たちのボート歴から自己紹介させていただきます。

私たちの期のボート部は吉田邦夫顧問のご指導のもと、体力的には見るべきものはなかったが、多彩な人材を集め、テクニクとチームワークを武器に県内に敵なしの赫赫たる戦績を収めた(?)と記憶しています。吉田先生によれば、戦績よりも、ボートに明け暮れていた私たち全員が国立一期校に現役で合格してしまったことが一番の驚きだったようです。

私たちの入部した69年はまだ6人漕ぎのフィックスで、新舞子への遠漕や庄内川(下之一色)での夏合宿でしごかれていました。鬼コーチは太田均(松寿庵経営)、関口藤太(猪高中教員)、樋田毅(朝日新聞記者)などの先輩たち、ナックルフォアに乗せてもらえたのは2年になってからでした。

ボート生活の白眉は、やはり70年岩手国体出場のこと。北上川の上流・錦秋湖を舞台に繰り広げた熱戦は、準決勝進出を逃したほろ苦い悔恨とともに忘れられません。ストローク：小川英樹(通産省、イタ

リア・ミラノ在勤)、2番川瀬哲男(ヤマハ発動機)、3番高木、パウ田島直樹(トヨタ自動車、他界)、コックス増田俊朗(凸版印刷研究所)のクルーで、艇外で支えてくれた山本修一(山口大教授)、水野広祐(京都大教授)、佐藤文俊(日銀大阪支店)、早矢仕幸利(千代田火災)などの漕友たちはいま、遠隔地にあって旧交を温める機会もままなりません、ボートが取り結んでくれた絆です。ただひとり30代で自ら命を絶った親友・田島を除いて。

長くご無沙汰していた私のこの一文が、同期の漕友たちとの再会のきっかけになれば良いと考えているところで

す。私自身は、1 昨年の衆議院選挙に愛知4区から出馬することとなって25年ぶりに名古屋に戻ったばかり。今度は来年4月の県議選に、瑞穂区から出馬することとなりました。民主党の現職・小池まさる先生の後継というチャンスをいただき、頑張っております。諸先輩からのご支援を期待していますのでよろしく。



ぐるりアジア

桑山栄一（19回）

12期の伊藤壽洪先輩が、経験された数多くの海外旅行を記した本「ぐるり地球」を今年のはじめに毎日新聞社から出版されました。非常に楽しく読ませて頂きました。私は、伊藤先輩に対抗すべく、「漕友」に「ぐるりアジア」を投稿させていただきます。

98年11月中旬にボート部同期の田淵哲雄君と台湾に旅行に行きました。同じく同期で現在台湾に単身赴任中の渡辺豊君を慰問するために半年前に企画した家族を連れての家族旅行の予定でした。ところが、フタを開けてみると野郎二人だけの海外旅行と相成りました。自立した愛妻と子供達に感謝!!

名古屋空港近くの海外出張の時必ず使う駐車場のおばさんに、「桑山さん、今日は顔が違うね」言われてしまった。そんな仕事と遊びでは顔つきまで変わるのかな、これからはもっと海外出張を楽しもうと心に決め、外国のお客様に見せるのが恥ずかしいほど狭い出発ターミナルに向かいました。



1日目の午後は、桃園市の南にある陶器の町、鶯歌に行きました。陶器を売る店が200軒以上建ち並ぶこの町は一見の価値あり。古典的な陶器から現代的なものまで非常に興味深く、ぶらぶら歩いていても飽きません。我々日本人は、古典的な陶器に興味がありますが、台湾の人は現代的なデザインと色調も陶器に興味があるようです。

2日目は終日あの故宮

博物館で過ごしました。一日いてもかなり見残したところがありました。しかし、展示されているのはほんの一部と聞き、大陸から大量の「もの」持ってよく逃げていたものだと、蒋介石のパワーにただただ感心するばかりです。



3日目は、台北からマカオへ行きました。飛行機で1時間半。私は、中国へはいるトランジットでよく入国しますが、一度も観光をしたことがないため無理に二人を誘ってしまいました。台湾料理中国料理と違うポルトガル料理は、



とてもうまかった。しかも安価、いいワインを2本飲み1人4500円ほど。タクシーで名所巡りをして、その足で陸続きの中国珠海市へ入り、有名な広東料理「ヘビ」と秋の名物上海蟹（中国では大闸蟹）を食べた。珠海市では有名な海鮮料理店での食事だったが、食事代は1人3000円弱であり、最高級の食材が非常に安価で食することができる。これは中国の最大の利点である。しかし、私はおいしくパクつきましたが、田淵君と渡辺君があまり箸がすすまなかった模様。変なところに連れてきてしまったと、大いに反省。

さすがにヘビは食べなかった渡辺君と田淵君

食事の後、これまた中国名物カラオケへ。最終日は、マカオ経由で台北へ、渡辺君に別れを告げ帰路につきました。

同じ空港だが、プライベートな旅行と仕事の旅行では全く違う空港に見えるのは不思議である。今回一緒に旅をした田淵君は、現在名南ふれあい病院の院長である。私とは違う医療と言う業界の話の聞くといつも新鮮な気分になる。これもまた1つの異業種交流。しかし、彼の職員看護婦そして患者への考えを聞くと、彼の心の広さを感じ、私も大いに見習わなければと反省しきりである。渡辺君は、アイシン精機から台湾の子会社慧国工業へ出向し3年目となる。慣れない外国での単身赴任で非常な苦勞をしたと思う。また彼の勤める桃園事務所に日本人は彼1人である。言葉の問題を克服し、3年間で桃園事務所を100%台湾人に任せられるようにした彼の努力には頭が下がる。しかし、あと3ヶ月で日本に帰ってくる。漕友会を仕切ってくれればと密かに期待している。

97年度会費納入者ご芳名(順不同、敬称略)

丸山洋一郎	森畑和之	篠田朱里	森田哲也	栗田圭一	鈴木邦治	三好秀吉	朝倉健夫
名倉英一	杉山章	水野隆志	鈴木幸平	吉倉孝也	石井敏彦	間正博	志水修
早川晴雄	和田次郎	山田圭二	杉浦実	浜島豊和	木崎彰久	服部省治	樋田毅

98年度会費納入者ご芳名(順不同、敬称略)

三好秀吉	大須賀登	鈴木幸平	志水修	荒川三郎	鈴木道辰	田中康夫	杉田朗
溝田輝彦	内堀典保	福井政彦	加藤澄一	杉浦実	大田均	吉田有香	河村直彦
野崎大輔	浜島豊和	青木一誠	木崎彰久	橋本佳延	服部慶子	土弘真史	日下部つかさ
鈴木隆容	梶屋知子	服部省治	宮澤大介	内藤佐和子	大谷賀一	鬼頭典子	山下英幸
岡林大祐	新家光	早川真	河村剛	河辺太加志	樋田毅	関口藤太	杉光
桑山栄一	田淵哲雄	伊藤壽洪	尾関繁俊	長谷川誠	久田敏夫	笹山洋文	加藤信介
高森泰	栗田正人	玉本晃	岩田鐵也	池田慎司	水谷晃	三輪隆之	竹川昌和
柴田和憲	近藤富夫						

98年度寄付金納入者ご芳名(順不同、敬称略)

三好秀吉	10,000	朝倉健夫	5,000	鈴木道辰	5,000	杉田朗	5,000
加藤澄一	10,000	杉浦実	10,000	内藤佐和子	2,000	山下英幸	2,000
杉光	5,000	桑山栄一	8,000	田淵哲雄	8,000	伊藤壽洪	4,000
長谷川誠	8,000	笹山洋文	5,000	近藤富夫	25,000		

愛知県立旭丘高等学校漕友会97・98年度会計報告(案)

1. 収入の部

設立総会(祝金,会費,寄付)	255,000
97年05月01日~97年10月16日(会費,寄付)	359,000
津高対抗戦(寄付)	168,000
津高艇友会より	100,000
97年12月04日~97年12月22日(会費,寄付)	165,000
97年12月24日~98年01月14日(会費,寄付)	78,000
総会・新年会(会費,寄付)	163,000
97年05月01日~97年10月16日(会費,寄付)	90,000
利子	631
小計	1,378,631

2. 支出の部

設立総会運営費	119,157
津高対抗戦運営費	287,490
現役補助	100,000
漕友1号郵送費	67,800
名古屋レガッタ案内	46,872
99総会・新年会案内	35,000
小計	656,319

3. 次年度繰越金(新艇建造費)

- = 722,312

1998年度現役戦績

第52回愛知県高等学校総合体育大会漕艇大会

日時：5月30日(土)・31日(日)
会場：愛知池漕艇場(1000m)

少年男子舵手付きフォア

予選				決勝			
	着順	タイム			着順	タイム	
豊田北高校	1	3' 50"	39	猿投農林高校A	3	3' 26"	16
猿投農林高校A	3	3' 58"	71	科技高豊田A	1	3' 20"	76
科技高豊田B	4	4' 36"	68	豊田北高校	4	3' 26"	76
旭丘高校	2	3' 56"	7	旭丘高校	2	3' 23"	28
				東郷高校	除外		
				科技高豊田B	5	3' 30"	24

少年男子ダブルスカル

予選				敗復				決勝			
	着順	タイム			着順	タイム			着順	タイム	
東郷高校B	2	3' 54"	68	東郷高校D	4	3' 57"	63	旭丘高校	6	4' 17"	57
猿投農林高校A	1	3' 54"	31	旭丘高校	1	3' 40"	3	科技高豊田	1	3' 32"	50
旭丘高校	3	4' 12"	32	豊田北高校	2	3' 40"	84	猿投農林高校A	2	3' 33"	23
東郷高校C	4	4' 30"	98	東郷高校C	3	3' 55"	1	東郷高校B	3	3' 35"	51
								東郷高校A	5	3' 48"	97
								豊田北高校	4	3' 39"	49

少年男子シングルスカル

予選				敗復				決勝			
	着順	タイム			着順	タイム			着順	タイム	
小嶋(東郷)	4	4' 30"	23	大塚(旭丘)	4	4' 50"	99	小嶋(東郷)	4	4' 0"	35
佐々野(猿投農林)	2	4' 17"	10	小嶋(東郷)	1	4' 35"	64	佐々野(猿投農林)	2	3' 45"	80
佐藤(旭丘)	1	4' 10"	94	山本(科技高豊田)	2	4' 36"	12	佐藤(旭丘)	1	3' 44"	42
山本(科技高豊田)	3	4' 29"	12	天野(猿投農林)	3	4' 49"	41	上成(猿投農林)	3	3' 46"	98
大塚(旭丘)	5	4' 41"	55					竹原(東郷)	6	4' 24"	93
								山本(科技高豊田)	5	4' 10"	42

第43回中日本レガッタ

日時：6月6日(土)・7日(日)
会場：愛知池漕艇場(1000m)

少年男子舵手付きフォア

予選				敗復			
	着順	タイム			着順	タイム	
旭丘高校	6	3' 34"	46	湖西高校	5	3' 33"	16
八尾高校	2	3' 26"	12	岡谷南高校	4	3' 27"	68
猿投農林高校A	5	3' 28"	22	美方高校	1	3' 18"	45
敦賀工業高校	1	3' 23"	73	旭丘高校	2	3' 22"	30
沼津東高校A	4	3' 27"	36	瀬田工業高校	3	3' 23"	31
美方高校	3	3' 27"	2	猿投農林高校B	6	3' 42"	49

準決勝

準決勝				決勝			
	着順	タイム			着順	タイム	
旭丘高校	3	3' 33"	8	八尾高校	4	3' 24"	96
若狭高校	6	3' 38"	14	科技高豊田A	2	3' 23"	70
八尾高校	2	3' 32"	45	敦賀工業高校	3	3' 23"	96
宮川高校	1	3' 30"	89	旭丘高校	6	3' 29"	61
猿投農林高校A	4	3' 33"	41	美方高校	1	3' 23"	43
瀬田工業高校	5	3' 35"	83	宮川高校	5	3' 25"	35

少年男子ダブルスカル

予選				敗復				準決勝			
	着順	タイム			着順	タイム			着順	タイム	
科技高豊田A	2	3' 51"	66	旭丘高校	1	3' 38"	1	旭丘高校	6	4' 4"	70
沼津東高校	3	3' 54"	79	若狭高校	3	3' 47"	35	豊田北高校	3	3' 54"	75
東郷高校B	4	3' 56"	84	敦賀工業高校A	2	3' 40"	17	猿投農林高校A	1	3' 50"	1
敦賀工業高校A	6	4' 4"	33					瀬田工業高校	2	3' 50"	43
旭丘高校	5	4' 2"	6					敦賀工業高校B	5	4' 0"	38
岡谷東高校	7	4' 6"	43					小浜水産高校	4	3' 59"	36
八尾高校B	1	3' 43"	37								

1998年世界ジュニア選手権大会派遣選手選考会

日時：6月6日(土)・7日(日)
会場：戸田漕艇場(2000m)

男子シングルスカル

予選				敗復			
	着順	タイム			着順	タイム	
兵頭(宇和島水産)	3	8' 1"	6	佐藤(旭丘高校)	4	8' 30"	76
西村(山口水産)	1	7' 34"	95	三塚(佐沼高校)	1	8' 9"	12
三塚(佐沼高校)	2	7' 45"	77	岡田(宇和島東高校)	2	8' 15"	92
佐藤(旭丘高校)	4	8' 3"	95	長野(日田高校)	3	8' 27"	76

第21回信毎諏訪湖レガッタ

日時：5月16日(土)・17日(日)

会場：下諏訪町漕艇場(1000m)

少年男子舵手付きフォア

予選	着順	タイム
旭丘高校	3	3' 31" 26
恵那高校	4	3' 32" 18
加茂高校	2	3' 30" 92
宮川高校	1	3' 29" 18
科技高豊田B	5	3' 36" 82

少年男子ダブルスカル

予選	着順	タイム	準決勝	着順	タイム
富士河口湖高校3	3	4' 3" 41	旭丘高校	6	4' 17" 57
科技高豊田	1	3' 45" 85	諏訪清陵高校	1	3' 32" 50
旭丘高校	2	3' 53" 62	富士河口湖高校1	2	3' 33" 23
下諏訪向陽高校	4	4' 37" 74	宮川高校	3	3' 35" 51
			科技高豊田	5	3' 48" 97
			八百津高校A	4	3' 39" 49

少年男子シングルスカル

予選	着順	タイム
宮下(富士河口湖)	2	3' 55" 36
土井(恵那)	4	4' 26" 47
下島(諏訪清陵)	3	4' 1" 35
高井(美濃加茂)	1	3' 48" 5
大塚(旭丘)	5	4' 29" 67

予選	着順	タイム
佐藤(旭丘・選抜)	1	3' 53" 76
馬場(美濃加茂)	4	4' 12" 64
茅原(富士河口湖)	3	3' 57" 12
西野(美濃加茂)	2	3' 53" 99
高林(諏訪清陵)	5	4' 15" 83

準決勝

着順	タイム
渡辺(恵那)	4' 3' 55" 29
遠藤(美濃加茂)	5' 3' 56" 70
渡辺(富士河口湖)	1' 3' 50" 51
佐藤(旭丘・選抜)	2' 3' 52" 79
石川(米山)	3' 3' 53" 3
細川(美濃加茂)	6' 4' 30" 47

決勝

着順	タイム
井戸(八百津)	3' 3' 47" 68
高井(美濃加茂)	2' 3' 44" 93
渡辺(富士河口湖)	1' 3' 42" 51
佐藤(旭丘・選抜)	5' 3' 55" 52
茅原(富士河口湖)	4' 3' 53" 14
下島(諏訪清陵)	6' 3' 59" 59

全国高等学校総合体育大会 漕艇競技

日時：8月6日(木)～11日(月)

会場：府中湖特設漕艇場(1000m)

男子シングルスカル

予選	着順	タイム
旭丘高校・佐藤	3	3' 47" 95
唐津西高校・本田	2	3' 46" 24
潮来高校・瑞木	1	3' 43" 93
大沢野工業高校・佐	5	3' 54" 92
坂出高校・貴田	4	3' 51" 90

敗復

着順	タイム
小松商業高校・北野	4' 4' 0" 17
日田高校・坂本	2' 3' 53" 8
旭丘高校・佐藤	1' 3' 49" 80
坂田東高校・佐藤	3' 3' 59" 92
東筑高校・中村	5' 4' 10" 73

準々決勝

着順	タイム
旭丘高校・佐藤	3' 3' 45" 56
山田高校・佐藤	2' 3' 44" 28
天竜林業高校・長谷	1' 3' 36" 46
美里工業高校・伊波	5' 3' 54" 53
本荘高校・猪股	4' 3' 46" 30

準決勝

着順	タイム
旭丘高校・佐藤	3' 3' 51" 42
宇和島東高校・岡田	1' 3' 45" 29
清風高校・有本	4' 3' 55" 70
潮来高校・瑞木	2' 3' 48" 88

第53回国民体育大会愛知県予選会

日時：7月19日(日)

会場：愛知池漕艇場(1000m)

男子シングルスカル

決勝	着順	タイム
日置(猿投農林)	3	3' 51" 46
佐藤(旭丘)	1	3' 45" 28
大塚(旭丘)	5	4' 21" 19
上成(猿投農林)	2	3' 48" 30
小嶋(東郷)	4	3' 54" 2

愛知県高校新人体育大会新人戦

日時：10月3日(土)・4日(日)

会場：愛知池漕艇場(1000m)

男子1×予選

着順	タイム
東郷C・中島	5' 4' 15" 30
科技A・井戸	2' 4' 2" 19
旭丘A・中村	1' 3' 51" 84
東郷B・近藤	4' 4' 15" 9
旭丘F・森島	3' 4' 2" 40
豊北C・前野	6' 4' 24" 48

着順

タイム	着順	タイム	着順	タイム
旭丘D・中江	5' 4' 40" 29	東郷D・菱川	4' 4' 47" 3	
豊北B・宇佐美	4' 4' 37" 41	猿投A・佐々野	1' 3' 48" 23	
東郷A・宮島	3' 4' 18" 13	旭丘B・前田	2' 4' 9" 4	
旭丘C・服部	2' 4' 13" 32	豊北A・三宅	5' 4' 51" 34	
猿投B・小林	1' 4' 9" 39	旭丘E・犬飼	3' 4' 34" 4	

男子1×敗復

着順	タイム
旭丘D・中江	4' 5' 8" 12
東郷A・宮島	2' 4' 36" 58
旭丘F・森島	1' 4' 35" 68
豊北C・前野	3' 4' 49" 49
東郷D・菱川	5' 5' 35" 66

着順

タイム	
豊北B・宇佐美	3' 4' 45" 27
東郷C・中島	4' 4' 50" 77
東郷B・近藤	1' 4' 41" 66
旭丘E・犬飼	2' 4' 43" 44
豊北A・三宅	5' 5' 7" 32

男子1×準決勝		着順 タイム		男子1×決勝		着順 タイム								
東郷B・近藤	5	4'	14"	4	旭丘E・犬飼	5	4'	15"	11	猿投B・小林	6	4'	21"	73
猿投B・小林	3	3'	59"	89	旭丘C・服部	4	4'	3"	84	旭丘A・中村	2	3'	49"	37
猿投A・佐々野	1	3'	41"	15	旭丘A・中村	1	3'	57"	39	猿投A・佐々野	1	3'	39"	43
旭丘B・前田	2	3'	55"	38	科技A・井戸	2	3'	59"	74	旭丘B・前田	3	3'	57"	4
東郷A・宮島	4	4'	13"	78	旭丘F・森島	3	4'	2"	10	科技A・井戸	4	3'	58"	2
豊北C・前野	6	4'	26"	55	豊北B・宇佐美	6	4'	15"	92	旭丘F・森島	5	4'	8"	23

女子1×予選		着順 タイム		
1 旭丘・高橋	1	4'	51"	57
2 豊北・加納	2	5'	27"	26

女子1×決勝		着順 タイム		
1 旭丘・高橋	3	4'	34"	6
2 猿投農林・藪	2	4'	26"	77
3 東郷・早川	1	4'	22"	3

男子2×予選		着順 タイム		
1 猿投農林B	2	3'	51"	94
2 旭丘A	1	3'	48"	16
3 科技高豊田A	4	4'	1"	68
4 東郷B	3	4'	1"	27
5 科技高豊田D	5	4'	8"	90

男子2×敗復		着順 タイム		
1 旭丘B	2	4'	13"	24
2 科技高豊田A	1	4'	7"	44
3 東郷C	3	4'	49"	59

男子2×準決勝		着順 タイム		
1 科技高豊田A	3	3'	39"	87
2 猿投農林A	4	3'	40"	69
3 豊田北A	1	3'	32"	89
4 猿投農林B	2	3'	36"	19
5 旭丘B	5	3'	54"	57

男子2×決勝		着順 タイム		
1 科技高豊田A	5	3'	40"	79
2 猿投農林B	4	3'	35"	67
3 豊田北A	2	3'	29"	66
4 東郷A	3	3'	32"	73
5 旭丘A	1	3'	26"	73
6 東郷B	6	3'	47"	11

男子4×予選		着順 タイム		
1 豊田北B	5	4'	12"	34
2 科技高豊田A	1	3'	34"	71
3 猿投農林A	2	3'	40"	32
4 旭丘	3	3'	50"	28
5 東郷B	4	3'	52"	34

男子4×敗復		着順 タイム		
1 猿投農林B	2	4'	3"	19
2 東郷B	1	3'	59"	53
3 旭丘	3	4'	5"	52
4 豊田北A	4	4'	5"	78
5 豊田北B	5	4'	37"	24

女子4×予選		着順 タイム		
1 豊田北B	3	4'	33"	35
2 猿投農林A	1	3'	55"	56
3 旭丘	2	4'	19"	86

女子4×決勝		着順 タイム		
1 旭丘	4	4'	5"	76
2 東郷	2	3'	55"	88
3 猿投農林A	1	3'	49"	75
4 猿投農林B	3	4'	1"	63
5 豊田北A	5	4'	9"	35

中部高校選抜大会
 日時：10月24日(土)・25日(日)
 会場：愛知池漕艇場(1000m)

高校男子シングルスカル

予選	着順	タイム	敗復	着順	タイム	準決勝	着順	タイム						
旭丘高校・中村	5	3'	56"	67	宮川高校・大滝	7	4'	15"	2	旭丘高校・中村	4	3'	43"	64
諏訪清陵高校・下鳥	2	3'	52"	23	新潟南高校・南波	5	4'	0"	96	岡谷南高校・今井	2	3'	42"	30
宮川高校・前納	8	4'	40"	67	沼津工業高校・加藤	2	3'	53"	64	猿投農林高校・佐々野	1	3'	37"	50
天竜林業高校・長谷	1	3'	49"	49	旭丘高校・中村	3	3'	54"	80	諏訪清陵高校・下鳥	3	3'	43"	13
小松商業高校・北野	6	4'	2"	84	小松商業高校・北野	1	3'	53"	12	大沢野工業高・藤	6	3'	50"	3
大沢野工業高校・藤	4	3'	55"	86	津川高校・阿部	4	3'	56"	31	小松商業高校・北野	5	3'	49"	75
新潟南高校・南波	7	4'	9"	82	美方高校・犬上	6	4'	5"	43	美方高校・犬上	7	4'	4"	20
小浜水産高校・山口	3	3'	54"	63	宮川高校・前納	8	4'	29"	32					

決勝		着順 タイム		
投農林高校・佐々野	1	3'	32"	73
天竜林業高・長谷川	2	3'	38"	37
小松高校・宮永	6	3'	44"	43
諏訪清陵高校・下鳥	3	3'	40"	0
小浜水産・山口	7	3'	45"	71
旭丘高校・中村	4	3'	43"	30
岡谷南高校・今井	5	3'	43"	72
小松商業高校・北野	8	3'	53"	93

男子ダブルスカル

予選	着順	タイム	準決勝	着順	タイム	決勝	着順	タイム						
1 岡谷南高校	4	3'	33"	19	1 八尾高校	5	3'	33"	37	1 大沢野工業高校	7	3'	37"	59
2 新居高校	1	3'	24"	13	2 豊田北高校	2	3'	29"	59	2 旭丘高校	3	3'	31"	12
3 七尾高校	6	3'	40"	95	3 小浜水産高校	1	3'	26"	93	3 浜松北高校	4	3'	31"	47
4 大沢野工業高校	5	3'	35"	17	4 旭丘高校	3	3'	30"	8	4 豊田北高校	5	3'	33"	84
5 新潟南高校	7	3'	54"	13	5 岡谷南高校	4	3'	32"	3	5 新居高校	2	3'	27"	20
6 小浜水産高校	2	3'	27"	41	6 敦賀工業高校	6	3'	35"	63	6 岡谷南高校	8	3'	43"	75
7 旭丘高校	3	3'	30"	90					7 新潟南高校	6	3'	34"	18	
									8 小浜水産高校	1	3'	26"	92	

編集後記

何とか年内に「漕友」第2号が完成いたしました。第2号に比べ物足りない内容だと思います。第3号にご期待下さい。ここ数年間は、一年に数回はオールを握りボートを漕いでいました。しかし、残念ながら今年は一度も握らず終わってしまいました。また、漕友会の行事がすべて海外出張と重なり参加できず、非常に申し訳ないと思っています。来期は、必ず参加しオールを握り、いい汗をかきたいと考えています。

海外出張する度に思うことは、「日本がアジアの模範」の言葉が、過去の言葉になりつつあるということです。ある分野を除き、日本は既に資金(できたら返さなくてもいいお金)の供給先であり、また大きな市場にすぎなくなったのではないだろうか。日本の時間流れと世界の時間の流れがあまりにも違いすぎる。政治と経済が成熟したと言えどもそれまでだが、加加速度的に変化する世界情勢の中で、日本は取り残されていくように思えて仕方がない。国、企業、そして人は、その変化に如何に他よりも早く変革できるかが、生き残れるかに通じる。変革できなければ、たちまち競争力を失う。先進国の先輩であるアメリカやイギリスが、ドラスチックな変革をとげ着実に21世紀に向けて進化する中、日本は過去10年間根本的な変革を先送りしてきた。

私の時代は高度成長のまっただ中にあり、一流大学を卒業し、一流企業に就職すれば人生の経済的な安全が保障されると考えられていた。しかし、私の世代でさえ今、リストラの嵐の中にある。専門的技能やコンピュータスキルに欠けるが年功で高給を得ている中間管理職が、対象になっているのは時代の流れからすると当然のことである。これから実社会に出る現役そして大学生諸君は、もっと大変だろうと思う。政治も企業も当てにならないから、自分の身は自分の身で守るしかない。自分の身を守るためには、自分を高め自分という商品の価値を高めなければならない。そのためには、何が必要かを私なりに考えてみた。若い世代に何かのアドバイスになればと。

まず、強靱な肉体を持つこと。これはボートで鍛えたことが大いに役立つことだろう。肉体的なスタミナは、精神的なスタミナに結びつく。高校時代の肉体を維持するため、できるだけ定期的に運動する方がいい。そして、酒が強い、全くためなことも大切だと思う。東南アジアでの仕事では、中途半端は非常に危険である。

人との出会いが自分を高めると思うこと。特に人生の先輩は、非常に大切である。漕友会は、私を除きすばらしい先輩達ばかりである。是非参加していただきたい。そして、どこの国の人も隔たりなくつき合うことも大切である。

英語でコミュニケーションができること。さらに中国語が話せること、なぜなら世界の人口の1/4が中国語圏であるから、また、中国が世界最大の市場になることは確実であるから。コミュニケーションができれば、日本以外の大きな流れを生で感じることができる。

現在の停滞期は、長期的には見れば加速度的に悪化すると思う。日本の変化の遅さからすると、世界から取り残され、我々の時代でのカムバクは無理だと感じる。これから実世界に出る後輩に期待したい。

ご報告いたします

漕友会会員で25回卒の福井政彦さん(現本田技研鈴鹿監督)より、旭丘高校ボート部へ木製シングルスカル1艇とオール2組をお譲りいただきました。厚くお礼申し上げます。

表紙「漕友」の文字は、足立翠泉の書

足立翠泉(聿子いつこ)千葉県我孫子市在住 長谷川誠会長の実姉で旭丘5回卒

師: 山本南陽 金子鷗亭

略歴: 毎日展毎日賞 創玄展・準大賞 日展入選 各地海外展、グループ展、個展等

現在: 毎日書道展審査会員、創玄書道会審査会員、近代詩文作家協会評議員、玄翠会主宰

マーサル学院講師、千葉県書道協会理事、我孫子市文化連盟理事、我孫子市書道連盟副会長